

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある」

項 目	前回（6 年 4 月判断）	今回（6 年 7 月判断）	前回 比較
総括判断	一部に弱さがみられるものの、 緩やかに回復しつつある	一部に弱さがみられるものの、 緩やかに回復しつつある	

（注）6 年 7 月判断は、前回 6 年 4 月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響等がみられるものの、緩やかに回復している。生産活動は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項 目	前回（6 年 4 月判断）	今回（6 年 7 月判断）	前回 比較
-----	---------------	---------------	----------

個人消費	物価上昇の影響等がみられるものの、緩やかに回復している	物価上昇の影響等がみられるものの、緩やかに回復している	
生産活動	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	

設備投資	5 年度は増加見込み	6 年度は増加見込み	
企業収益	5 年度は増益見込み	6 年度は減益見込み	
住宅建設	前年を下回っている	前年を上回っている	
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、海外景気の下振れや物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「物価上昇の影響等がみられるものの、緩やかに回復している」

百貨店販売は、インバウンド向けを中心にラグジュアリーや化粧品が好調なことから前年を上回っている。スーパー販売は、買い控えが見られるものの価格転嫁の浸透もあり前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、都心部におけるインバウンド需要等により前年を上回っている。乗用車販売は、足下、おおむね横ばいとなっている。ドラッグストア販売は、日用品等が好調のほか、新規出店の効果もあり前年を上回っている。家電大型専門店販売は、おおむね横ばいとなっている。ホームセンター販売は、需要の一巡などから前年を下回っている。旅行取扱高は、一部に旅行支援事業の反動減がみられるものの堅調に推移している。

(主なヒアリング結果)

- 4～6月の売上高は引き続き好調。インバウンド客による売上げ増加の底上げ効果がより顕著となっている。ただ、中国人観光客の戻りは多くはなく、韓国や台湾に加え東南アジア（タイ、シンガポール）からの観光客が増加している。（百貨店）
- 商品値上げにより客単価が上昇し、売上げは前年をやや上回っているが、買い上げ点数は減少している。特売商品のついで買いを控え、必要なものだけを購入するなど、顧客の節約傾向がみられる。（スーパー）
- 博多駅周辺などの都心部ではインバウンド需要に支えられ、売上高、客数ともに好調であるが、その他の地域においては、来店客数や日配品を中心とした買い上げ点数の減少がみられる。（コンビニ）
- 一部自動車メーカーの工場停止による受注キャンセルなどの影響もあり、1月以降、新車売上台数は前年を下回っていたが、生産再開により回復傾向に転じた。（自動車）
- 国内個人旅行は、前年の全国旅行支援の反動減がみられる。海外個人旅行は、アジアやハワイなどへの旅行は多少増加しているものの、円安による割高感を懸念する客が多い。（旅行代理店）
- 宿泊部門は堅調に推移しており、インバウンドも引き続き好調。旅行支援による需要が一巡したことにより稼働率は低下したものの、宿泊料が上昇したことにより売上げは確保できている。（宿泊）
- 人流が回復し、かなり客足が増えている。店内利用だけでなく、出先でのドライブスルー利用も増えている印象。（飲食）

■ 生産活動 「持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている」

輸送機械の自動車は、昨年度の高水準の生産の反動等により生産活動が低下している。はん用・生産用機械は、増加基調となっている。電子部品・デバイス、引き続き、受注の減少がみられている。鉄鋼は、建築資材の需要などが伸び悩んでおり、横ばい圏内で推移している。

- これまで部品不足からの挽回生産により高水準の生産が続いていたが、増産前の適正な水準に戻っている。（輸送機械）
- 生産の高度化・自動化に対する底堅い需要などにより受注が増加している。（電気機械器具）
- 半導体市場の在庫調整等により、受注が減少している。（情報通信機械器具）
- 人手不足により建設工事が進まないことから、建材需要が低調な状態が継続している。（鉄鋼）

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。新規求人数は前年を下回っている。

- 賃上げが広がるなか、より厚待遇を求めて転職を検討する求職者が増えている。企業からは引き続き人手不足の声が聞かれる一方、製造業の一部では、原材料価格の高騰などを背景に人件費削減のため求人を抑える動きや、派遣需要が減少するなど、引き続き物価上昇などによる新規求人数減少には留意する必要がある。（公的機関）
- 他の仕事を希望する若手職員の離職が多いなど、人員確保が十分でなく、1人当たりの労働時間を延ばすことで対応している。（食料品）
- 従業員が不足しており、時給を上げてでも充足しないため、不足分は隙間バイトを活用している。今後は外国人実習生の採用を考えており、準備を進めている。（小売）

■ 設備投資 「6年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年4-6月期

- 製造業では、「非鉄金属」等で減少見込みとなっているものの、「自動車・同附属品」、「情報通信機械器具」等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、「卸売」等で減少見込みとなっているものの、「運輸、郵便」、「小売」等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。

- 生産ラインの機器の変更や工程の組み換えを行うため、増加見込み。(自動車・同附属品)
- 倉庫の新設等により、増加見込み。(運輸、郵便)

■ 企業収益 「6年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年4-6月期

- 製造業では、「電気機械器具」等で増益見込みとなっているものの、「自動車・同附属品」、「非鉄金属」等で減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。
- 非製造業では、「学術研究、専門・技術サービス」等で増益見込みとなっているものの、「運輸、郵便」、「生活関連サービス」等で減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。

■ 住宅建設 「前年を上回っている」

- 新設住宅着工戸数でみると、持家及び貸家が減少しているものの、分譲住宅及び給与住宅が増加していることから前年を上回っている。

■ 輸出 「前年を上回っている」

- 輸出(円ベース)は、前年を上回っている。なお、輸入(円ベース)は、前年を上回っている。

(その他項目)

- 企業の景況感を法人企業景気予測調査(6年4-6月期)の景況判断BSIでみると、6年4-6月期は、「下降」超となっている。先行きについては、6年7-9月期は「上昇」超の見通しとなっている。

3. 各県の総括判断

	前回 (6年4月判断)	今回 (6年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
福岡県	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある		個人消費は、物価上昇の影響等がみられるものの、緩やかに回復している。生産活動は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
佐賀県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある		個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
長崎県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある		個人消費は、回復しつつある。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。